

## **資料2 別添1**

# **各地域包括ケア推進会議における論点**



各地域包括ケア推進会議における主な議論

包括	日	参加者				議題	①課題	②関係する個別事例	③地域での対応方針	④地域での対応状況 今後の方向性	⑤市レベルで期待すること		
明第1	11月26日	町会	1	医師	2	ケアマネ	3	ア	○外国籍の方の支援に伴う課題の整理・支援対策が必要。	○難病を抱え、独居生活に不安がある外国籍の高齢女性。読み書きできるが片言で聞き取りにくい。徐々にADLが低下がみられ、生活に対する不安が大きくなっている。	○英語圏以外の外国籍の住民も多いため、コミュニケーション方法の検討。 ○外国籍の方が自治体への関わり方や地域交流の場の知る機会を作る。	○やさしい日本語や短い文章・固有名詞などを使い外国籍の方にわかりやすく伝える。 ○外国籍の方が交流の機会があることがわかり、関わる機会が周知されて社会参加の機会が増える	○介護サービス等で外国籍の市民とのコミュニケーションが必要となった際の支援者向けの通訳サービス ○外国籍の市民が日常生活の中で、必要な際に利用できる外国籍の市民に向けた通訳サービス。
		地区社協	1	歯科医師	1	介護事業者							
		市社協	0	薬剤師	1	通所介護	1						
		民生委員	5	看護師	0	訪問介護	0						
		ボランティア		保健師(市役所職員含む)	0	訪問看護	2						
		高支連	0	医療相談員	2	グループホーム	2						
		生活支援CO	0	理学療法士	1	小規模多機能	0						
		地域	0	基幹型	0	地域包括	7						
				松戸市国際交流会	4	市役所	4						
		見学者	6	合計	43								
明第2 西	11月13日	町会		医師		ケアマネ	9	ア  イ  ウ	病院や介護事業所で働いている専門職は、地域の元気な高齢者との接点が少ない。	医療・介護の専門職と地域包括の共同で開催する介護予防・フレイル予防教室を増やす	○歯科医師会はオーラルフレイル発見のための検診や介護予防の各種イベントに参加している ○包括と地元病院でフレイル予防教室を開催した	高齢者福祉・障害福祉・家庭子育て・地域福祉・共生社会など縦割り組織間が、同じような課題に対して連携して施策立案してもらいたい	
		地区社協		歯科医師	1	介護事業者							
		市社協	1	薬剤師	1	通所介護							
		民生委員	2	看護師		訪問介護							
		ボランティア		作業療法士	1	訪問看護							
		高支連		言語聴覚士	1	地域包括	5						
		生活支援CO	1	理学療法士		市役所	1						
		NPO	1	警察		特別養護老人ホーム	1						
				消防		小規模多機能	1						
						合計	26						
						①医療・介護専門職が、介護予防に専門性を発揮できる仕組みづくり	町会などの地域活動やボランティアの担い手の高齢化が進んでいて若い後継者が少ない	多世代が参加でき交流できるサロンやイベントを増やし、若い世代に地域活動に関心をもってもらうきっかけにする	高齢者と子ども・子育て世代が参加できるイベント「いらめっこ&くるくる」を開催した	高齢者福祉・障害福祉・家庭子育て・地域福祉・共生社会など縦割り組織間が、同じような課題に対して連携して施策立案してもらいたい			
						地域で行われている体操やサロンの情報がまとまっていない		SNSを活用して若い世代に発信するとともにスマホ教室でSNSを活用できる高齢者を増やす	明2地区のイベント情報を発信するSNSを新設できないか検討する				

各地域包括ケア推進会議における主な議論

包括	日	参加者				議題	①課題	②関係する個別事例	③地域での対応方針	④地域での対応状況 今後の方向性	⑤市レベルで期待すること		
明第2 東	11月20日	町会	1	医師	1	ケアマネ	2	ア	地域は限定的だが買い物に出かけることが困難な高齢者がいる	要支援・要介護状態になる前は駅周辺までの移動に困難さはなかったが、歩行に不安を感じる状態になった今では近所の坂が外出を困難にさせる要因になっている	○移動販売車停車場所案：公園、自治会館、クリニック、お寺さんの駐車場等。施設の駐車スペースをぜひ利用してほしい。 ○移動販売日にベンチを出して、休憩スペースを作り地域住民の方と入居者とのコミュニケーションの場所として提供したい。自宅内のスペースを貸すことも可能。公園は午後だと子育て世代も利用できるのではないかと。多世代交流ができることを期待したい。	○移動販売の車両を止められそうな場所を地図に落とし込んだ。今後はルートを検討する。 ○認知症等で日時の感覚が無い方や足腰が悪い方などのフォローをしてくれるボランティアがいると安心。オレンジ協力員、民生委員、包括職員等、利用する方の見守りがあっても良いかと思う。（移動販売に集うことをきっかけに、コミュニケーションの促進効果も見込める）	買い物困難者への支援策の充実
		地区社協		歯科医師	1	介護事業者							
		市社協	1	薬剤師	1	通所介護	1						
		民生委員	10	看護師		訪問介護							
		ボランティア		作業療法士		訪問看護	1						
		高支連		医療相談員		その他	2						
		生活支援CO		理学療法士	2	地域包括	7						
						市役所	1						
		生活支援CO	1	グループホーム	1	その他	2						
		多機能CO	1	小規模多機能	1	合計	37						
本庁	11月27日	町会	1	医師	2	ケアマネ	2	ア	高齢者見守りに対しての地域と企業の連携。	独居世帯、認知症など見守り支援が届きにくい高齢者の事例。	市より提供があった要介護高齢者のためのチェックリストを地域性を加味し再作成する。	チェックリストを企業等が活用し、地域や包括へ連絡・相談する。同時に企業等と地域の連携強化を構築する。個人情報利用が課題として上がっている。	見守り協定の推進のための周知強化や協定内容の見直し
		地区社協		歯科医師	1	介護事業者							
		市社協	2	薬剤師	2	訪問看護	2						
		民生委員	1	看護師		福祉用具	1						
		ボランティア		作業療法士	1								
		高支連		医療相談員		地域包括	5						
		生活支援CO		理学療法士		市役所	5						
				警察		グループホーム	1						
				企業	7	学識経験者	1						
				しぐなるあいず	1	合計	35						
						イ	地域高齢者の課題の共有、企業の行っている取り組みと、今後行えそうな取り組みの把握	買い物、ゴミ捨てなどの課題がある高齢者が社会資源不足により、適切な支援に結びつかない事例。	有償ボランティアの利用や、移動販売、買い物ツアーの積極利用や地域への誘致。	有償ボランティア、移動販売等を地域に周知していく。	移動手段確保に関して、交通や送迎サービス等をおこなっている幅広い企業や事業者との連携を行っていく。		

各地域包括ケア推進会議における主な議論

包括	日	参加者				議題	①課題	②関係する個別事例	③地域での対応方針	④地域での対応状況 今後の方向性	⑤市レベルで期待すること		
矢切	11月22日	町会	1	医師	1	ケアマネ	3	ア 災害時の要援護者の避難について、民生委員や町会での支援は限界があるため、近所での支えあいが必要である  イ 町会ごとに防災に対する意識に差がある  ウ 坂下の要援護者の避難時の移動方法が確立していない	若い世帯は流入してきているが、町会に入らないなど地域の繋がりが希薄化している  防災訓練の実施、防災倉庫の備蓄の確認、民生委員との連携など、防災への取り組みを行っていない町会もある  個人情報に留意しながら、どのような移動手段支援方法があるのかを検討していく。	災害時は自助・互助だけでなく近所の支え合いが必要であることの意識付けを、どのように行うかを検討していく。  矢切地区の防災について町会だけでなく、民生委員や地区社協などと一体的に連携し、意識の統一を図っていく。	地域の多世代交流のイベントを活用して、町会の若い世代への取り込みやネットワーク構築を推進し、情報の発信と受け取る方法を模索する。  矢切の防災に関する取り組みを見える化するとともに、地域の防災に関する具体的な話をする場を設け、ネットワークの構築を図る。		
		地区社協	1	歯科医師	1	介護事業者							
		市社協	1	薬剤師	1	通所介護	3						
		民生委員	5	看護師	1	看多機	3						
		ボランティア		作業療法士	1	福祉用具	1						
		高支連		有識者		地域包括	5						
		通いの場代表		保健センター	1	市役所	1						
		足立区関係者	5	警察		特別養護老人ホーム							
				消防		認知症対応型共同生活介護							
				NPO	1	合計	36						
東部	9月20日	町会		医師	2	ケアマネ	4	ア 多様化する詐欺被害から高齢者を守るために、支援者として何ができるか。  高齢者の権利擁護について～詐欺被害等の防犯対策を考える～	80代。認知症、要介護1 デイサービス利用。子① 家族と二世帯住宅だったが、折り合いが悪く、転勤を機に他県に転居。子2 家族は海外。関係悪く音信不通。子1の配偶者が半年に1回定期受診同行のため帰省。独居になり数回詐欺被害に遭う。現在は2階に子1配偶者の兄弟が防犯を兼ねて同居。本人はあまりよく思っていないため、関係は希薄。  ○自治会でカラフルなのぼり旗を立てたことによって一切勧誘がなくなった。 ○ケアマネとの信頼関係を築き高齢者から情報をキャッチし被害を防いだ。  今後の方向性 ○認知機能低下・判断力低下に加え、社会的に孤立している人が被害に遭いやすい。高齢者が集まれるコミュニティを確立していく。 ○家族に言うとな怒られるなどを理由に、誰にも相談せずに自分だけで判断してしまっていることが問題である。「即答はしない」を周知する必要がある。	○のぼり旗や防犯カメラ（ダミーでも可）などの防犯活動用品を設置して、訪問をためらうような工夫をする。 ○分かりやすいチラシやキャッチコピーを考え、高齢者への周知を継続して行う。 医療機関などに協力を依頼して、啓発物が高齢者の手元に届くよう工夫をする。	○自治会でカラフルなのぼり旗を立てたことによって一切勧誘がなくなった。 ○ケアマネとの信頼関係を築き高齢者から情報をキャッチし被害を防いだ。  今後の方向性 ○認知機能低下・判断力低下に加え、社会的に孤立している人が被害に遭いやすい。高齢者が集まれるコミュニティを確立していく。 ○家族に言うとな怒られるなどを理由に、誰にも相談せずに自分だけで判断してしまっていることが問題である。「即答はしない」を周知する必要がある。	○高齢者が集まれるコミュニティを確立していくことが課題。 ○被害額は増えたが、被害件数が減っているため、チラシによる周知活動は一定の効果がある。情報量が多過ぎてチラシが細かくてわかりにくい。絵を活用したり、紹介事例をしぼることで分かりやすくすることで更に有効ではないか。	
		地区社協		歯科医師		介護事業者							
		市社協		薬剤師	1	通所介護							
		民生委員	1	看護師		訪問介護							
		ボランティア		作業療法士		訪問看護	1						
		高支連		医療相談員	1	地域包括	2						
		生活支援CO	1	理学療法士	1	市役所	1						
				警察		特別養護老人ホーム							
				消防		小規模多機能							
						合計	15						

各地域包括ケア推進会議における主な議論

包括	日	参加者				議題	①課題	②関係する個別事例	③地域での対応方針	④地域での対応状況 今後の方向性	⑤市レベルで期待すること			
常盤平	11月21日	町会	1	医師	1	ケアマネ	5	介護保険サービスで対応できない様々な困りごとに対してどのような支援があると良いのか。	ア イ ウ	認知機能の低下が進行する前に、また、認知機能の低下が進行してきている方に対して、どんな見守りや支援、交流があれば自宅で安全に生活を継続することが出来るのか。	○80代後半、要介護1→3、独居。今までできていたことが急激にできなくなっている方の支援について ○80代。要介護1。独居。服薬管理・栄養管理ができていない、物忘れ妄想あり、入浴ができていない等の問題がある方。	○近所の方や友人に協力をいただく。 ○病院を受診し気持ちを落ち着かせる薬を処方してもらう。	○元気なうちに早めに対応・準備しておく。 ○小規模多機能を含め、施設を検討する。 ○成年後見制度を利用する。	○ケアマネに負担がかかり過ぎないような仕組み作り。 ○後見制度を含めた元気なうちに備えておく仕組み作り。
		地区社協		歯科医師		介護事業者								
		市社協	1	薬剤師	2	通所介護								
		民生委員	2	看護師		訪問介護								
		ボランティア		作業療法士		訪問看護								
		高支連	1	医療相談員	2	地域包括	4							
		生活支援CO		理学療法士	1	市役所	4							
		商店	1	警察		特別養護老人ホーム	1							
		成年後見相談	1	基幹相談員	1	小規模多機能								
		その他	3			合計	31							
常盤平 団地	9月5日	町会	1	医師	1	ケアマネ	5	プロボノMATSUDOやボランティア募集の案件について具体的な方策を検討してみよう	ア	○8050世帯では自ら声を上げることが少なく、孤立の実態把握が難しい。 ○孤独感や寂しさから、借金を繰返したり、詐欺被害に遭ってしまう高齢者増。 ○夫婦世帯は家庭状況が把握が難しく、孤立の早期発見が難しい。	○障害者虐待の疑いがある8050世帯の支援について ○転居後の環境でお金の心配なく安心して暮らすためには ○家庭内別居状態にある夫婦に対してのサービスの導入について	○見守り不在、地縁の欠如が多く見られる中で地域での情報発信の仕組みが必要 ○地区社協ホームヘルプ事業の協力者を増やす ○自治会運営や各種イベントの協力者を増やす ○ボランティアニーズ（傾聴、団地イベント支援、自治会・社協運営支援）	○プロボノMATSUDOを理解してトライアルしてみる。例：常盤平団地イベントチャンネル。情報発信のノウハウを身につける機会の創設。素材、画像、集会情報集めや発信方法 ○『ちばボランティアナビ』の活用 ○情報提供を負担少なく発信できる新しい仕組みの創設	○プロボノMATSUDOの理念を広く提唱し活動に繋げる
		地区社協	1	歯科医師		介護事業者								
		市社協	1	薬剤師	1	通所介護								
		民生委員	1	看護師		訪問介護								
		ボランティア		作業療法士		訪問看護	1							
		高支連		医療相談員	1	地域包括	4							
		民児協		理学療法士	1	市役所	1							
		プロボノ	1	警察		司法書士								
		大学教員	3	製薬企業	1	団地事業者	1							
						合計	25							

各地域包括ケア推進会議における主な議論

包括	日	参加者				議題	①課題	②関係する個別事例	③地域での対応方針	④地域での対応状況 今後の方向性	⑤市レベルで期待すること			
五香松 飛台	11月21日	町会	1	医師	1	ケアマネ	4	「住み慣れた自宅 で最期まで暮らす」 には地域で何 ができるのか？	ア	認知症の方への災害 対応	○認知症状のある母親と 引きこもりの息子が同居 ○認知症独居の方の災害 時の対応。	○民生委員・相談協力員とケ アマネとの連携会議を継続実 施。 ○小学校で行う防災訓練に参 加。	○民生委員、高支連の名簿一 覧をケアマネに随時配布。 ○認知症の要支援者の避難誘 導訓練。	○教育委員会に働きかけ認 サポを必須とするカリキュ ラムを作る。 ○防災計画や避難計画の普 及啓発
		地区社協	1	歯科医師	1	介護事業者								
		市社協	1	薬剤師	1	通所介護								
		民生委員	6	看護師	0	訪問介護								
		ボランティア		常盤平基幹	1	訪問看護	1							
		高支連	6	管理栄養士	1	地域包括	8							
		生活支 援CO	0	理学療法士	1	市役所	1							
		松戸 NPO	1	学校教頭	1	特別養護老 人ホーム	1							
				健康推進課	1	小規模多機 能								
		その他	0	合計	38									
六実六 高台	11月20日	町会	1	医師	1	ケアマネ	5	3.令和6年度上 半期地域包括支 援センターの活 動報告 5.令和6年度六 実六高台地域づ くり委員会報告 (二層協議体) 6.課題検討 7.次回以降の地 域ケア会議につ いて 8.その他	ア	災害発生時の地域と の協力～地域共生社 会の実現を目指して ～	月に1度2日～3日しか同居 家族が帰って来ない状況 にある認知症を持つ高齢 者	○まずは自分で備えておくこ とが大事。1週間分くらいの 蓄えは用意しておく。 ○防災訓練を定期的に行い、 備蓄品の確認もしておく。	○避難訓練、防災訓練への参 加、個人の備えについて啓発 する。 ○日頃から町会単位で繋がり を作る。 ○避難所を周知する。	○個人の備え、要支援名 簿、防災計画や避難計画の 普及啓発。
		地区社協	1	歯科医師	1	介護事業者								
		市社協		薬剤師	1	通所介護	1							
		民生委員	1	看護師		訪問介護								
		ボランティア		作業療法士		訪問看護	1							
		高支連	1	医療相談員		地域包括	5							
		生活支 援CO	1	理学療法士	1	市役所	2							
				警察		特別養護老 人ホーム	1							
				看護多機能	1	看護小規模 多機能	1							
		グループ ホーム	1	合計	27									

各地域包括ケア推進会議における主な議論

包括	日	参加者				議題	①課題	②関係する個別事例	③地域での対応方針	④地域での対応状況 今後の方向性	⑤市レベルで期待すること	
小金	11月26日	町会	1 医師	1 ケアマネ	1	1.開会 2.自己紹介 3.前回会議の振り返り 4.養護者を地域で支えるには 5.その他 事務連絡	ア 養護者の困難に気づくことが難しい。	OBPSDがひどく家族の介護負担がとて大きい世帯の支援について。 ○ダブルケアや虐待分離、認知症独居など複合的な課題を持つ本人をどのように地域で支えることができるか	○介護者が地域で孤立しないようにする必要がある。 ○介護者が地域で自分のことを気軽に話せる場所や機会が必要。 ○養護者と本人と一緒に集いの場に通う。 ○養護者がリラックスできる場を紹介する。 ○助け合える仲間を作る ○地域の中に介護に理解のある人を増やす。 ○養護者が困った時の連絡手段が必要。 ○養護者から見た世帯状況や養護者自身の抱える複合的な課題、思いなどを把握し介護の負担軽減を図る必要がある。	○元気応援クラブなどの地域資源に介護者をつなぎ、養護者の孤立を防ぐ、養護者がリラックスできる、いざという時に助け合える仲間ができるように支援。 ○本人が外に出たがるタイミングでオレンジ協力員や外部サービスを利用する。 ○OCMと母子保健センターが連携、幼児健診、幼稚園保育園等の支援、ファミリーサポート、シルバー人材センターによる家事支援などの利用をして育児、介護負担を軽減する。 ○どうしてもつづければ専門職に対応を依頼し、やらなくてもいいと養護者に伝えることも必要。	○つながりの場の創出 ○効果的な情報発信の仕組み作り ○連帯してくれる人を増やす仕組み作り	
		地区社協	歯科医師	1	介護事業者							
		市社協	薬剤師	2	通所介護							
		民生委員	2 看護師		訪問介護							
		ボランティア	作業療法士		訪問看護							
		高支連	理学療法士	1	地域包括							2
		多機能コーディネーター	1 地域共生課	2	地域包括ケア推進課							1
		生活支援課	小金保健福祉センター	1	特別養護老人ホーム							1
		健康推進課	1 男女共同参画課	1	おんぶ							1
		生活支援コーディネーター	1 元気応援クラブ	1	合計							22
小金原	11月25日	町会	医師	2 ケアマネ	2	複合的な課題をもった事例に対する支援	ア 必要な人に必要な情報が届かない	80代である本人と50代の障害を持つ子が同居する家族において、本人の年金で生活を送っている。本人たちは現在困っていないというが、今後本人が亡くなった時に収入が途絶える状況となると長女、長男の生活は破綻することが現実視されている事例	近所や民生委員の協力も得ながら家族へ関わり、医療、介護、障害、近隣住民で役割分担をしながら支援を行う。	家族のもとへ何度も足を運び、時間をかけてコミュニケーションを取り続ける。医療、介護、障害、近隣住民で協力連携し、関わる。	複合的な課題（障害・精神的問題・引きこもりなど）に対応する事案について、どの機関に相談すべきか、市が具体的な業務内容や支援に関する情報を整理し、相談窓口や関係機関と共有出来る連携システムの構築を求めたい。	
		地区社協	歯科医師		介護事業者							
		市社協	薬剤師		通所介護							
		民生委員	3 保健師		訪問介護							
		ボランティア	作業療法士		訪問看護							
		高支連	医療相談員	3	地域包括							5
		生活支援CO	理学療法士	1	市役所							2
			警察		特別養護老人ホーム							
			消防		小規模多機能							
			小金基幹	1	合計							20

各地域包括ケア推進会議における主な議論

包括	日	参加者				議題	①課題	②関係する個別事例	③地域での対応方針	④地域での対応状況 今後の方向性	⑤市レベルで期待すること	
新松戸	11月19日	町会	医師	1	ケアマネ	2	水害に備えてそれぞれの立場でできること	<p>○OR6.7.16の事例 家族関係が希薄で精神疾患も疑われる独居高齢者の支援について （各町会やマンションで災害に向けた取り組みは行っているが、具体的に誰が助けるかなどは決められておらず、新松戸地区は坂川、新坂川、江戸川があり、平地のため、水害時には浸水区域に入る）</p> <p>○OR6.7.16の事例 入院適応にならず、在宅生活も困難な方への支援 OR6.9.17の事例 子の意向と違う本人の希望を叶えるためにはどうしたらよいか OR6.9.17の事例 精神疾患の方の入院先が見つからずに苦慮したケース</p>	<p>○各事業所でBCP作成、研修実施 ○避難訓練、備蓄、町会単位で避難ができるよう避難場所確保 ○地震を想定した対策は行っているが、水害を想定した対策は行われていない ○災害弱者（認知症、外国人等）は避難所で過ごせない可能性がある ○住民全体の把握が難しい。 個人情報への壁がある</p>	<p>○ケアマネのアセスメント項目に避難場所を追加し、利用者とケアマネで緊急時について話をする機会を作っている ○薬局：災害時に備えて、数日分の薬の備蓄を指導している。担当している方の連絡先を携帯に登録。 ○それぞれが関わっている対象者や家族等に対し、災害の話をしたり情報提供することで、災害に対する意識や危機感を持ってもらえるよう働きかける ○避難のタイミングや在宅避難など、市民に対して災害について普及啓発 ○近所付き合いを行うことが、災害時にも生きてくるため、日頃から関係作りを進める</p>	<p>○市を中心に鉄道会社、バス会社等を巻き込み、避難について検討していく</p> <p>○水害時の避難場所として適正なのかの避難場所の見直し</p>	
		地区社協	1	歯科医師	1	介護事業者						
		市社協		薬剤師	1	通所介護						
		民生委員 (1名高支連重複)	3	保健師	1	訪問介護						
		ボランティア		言語聴覚士	1	訪問看護						
		高支連	1	医療相談員	1	地域包括						4
		生活支援CO		理学療法士		市役所						
		オレンジ協力員		警察		特別養護老人ホーム						
		CI新松戸	1	消防		地域住民						2
				障害	1	合計						21
馬橋西	11月22日	町会	医師		ケアマネ	2	地域イベント等の参加者が固定されてしまっており、若い世代、中々外に出ていない高齢者、障害者や外国人など参加出来ない人も多い。	<p>気軽に男性が集まって活動できる場が少ない。 高齢でも障害者でもない若い世代の相談先や受け皿が不足している。 ゴミ捨ての問題。</p>	<p>現在開催している行事等を恒例行事として理解してもらい定着できるように開催する。 掲示板、回覧板などを活用する。 スマートフォン等の活用。</p>	<p>健康マイレージの活用等、参加者がやりがいをもちて参加できるような仕組みを作る。 QRコードやWebを活用し、どのようなでも参加申し込みがしやすい様にする。 若い世代の方にスマートフォンを教えてもらうなどのマッチングが出来れば良い。</p>	<p>健康マイレージのアプリ化やQRコード、WEBの活用促進等。</p>	
		地区社協	1	歯科医師	1	介護事業者						
		市社協		薬剤師	1	通所介護						
		民生委員	3	看護師		訪問介護						
		ボランティア		作業療法士		訪問リハビリ						
		高支連		医療相談員		地域包括						5
		生活支援CO		理学療法士		市役所						2
				警察		看護小規模多機能						1
				消防								
						合計						17

各地域包括ケア推進会議における主な議論

包括	日	参加者				議題	①課題	②関係する個別事例	③地域での対応方針	④地域での対応状況 今後の方向性	⑤市レベルで期待すること	
馬橋	11月7日	町会	医師	1	ケアマネ	1	支援が行き届いていない高齢者が増えている。	要支援の認定を受けているが、ケアマネが不足しておりサービス利用を待っており、日中独居で一人では外出できないため、社会参加できない高齢者がいる。	地域の中で高齢者が参加する場所を創出できないか、町会に働きかけていく。	地域住民のニーズや生活実態を基に、町会にアプローチしていく。参加者は、高齢者だけでなく、多世代の方が参加できる場にしていくことも見当。	介護保険サービスが必要な高齢者が、スムーズにサービスを利用できるような仕組み作り。	
		地区社協	歯科医師	1	介護事業者							
		市社協	1	薬剤師	1	通所介護						
		民生委員	1	看護師		訪問介護						1
		ボランティア		作業療法士		訪問看護						1
		高支連		医療相談員		地域包括						7
		生活支援CO	1	管理栄養士	1	市役所						2
				警察		グループホーム						
		消防		小規模多機能	1							
		理学療法士		合計	20							